

東松島市図書館が「津波の高さマップ」の製作を進めている。図書館を訪れる住民に協力してもらい、東日本大震災で体験した津波の高さをシールで色分けして地図上に表していく。気軽に参加できる手法を生かして多くの住民を巻き込み、震災の教訓を後世に伝えるツールにしたいと考えた。

津波地図 市民の手で

東松島市図書館が掲示

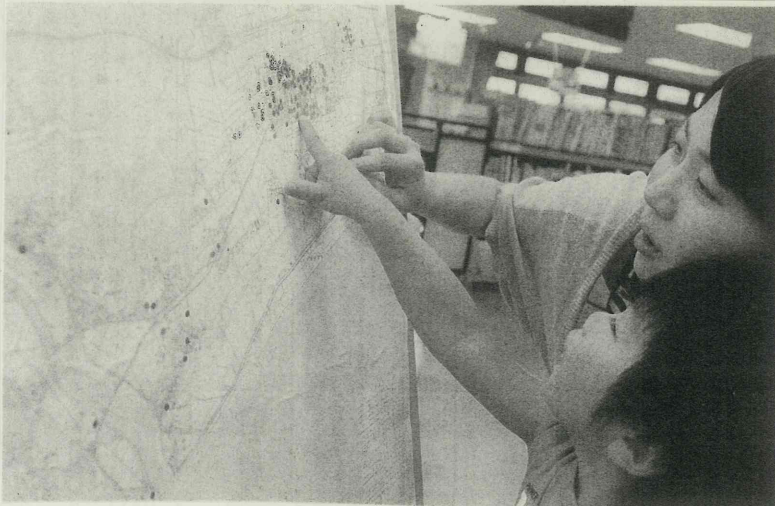
1万人目標 シール貼り呼び掛け

地図は縮尺1方2500でいる。体験を語ることに抵抗を感じる人もいる縦119センチ、横84センチ。津波の高さごとに、50センチ以上の地図の製作を始めた。地図は7月下旬から図

赤など5段階に色分けしたシールを用意し、住民が津波に遭遇した場所や自宅の位置に貼り付ける。

図書館は住民の被災体験談や写真を収集するアーカイブ事業に取り組んでいる。

住民一人一人の被災体験に基づき製作している「津波の高さマップ」



けた。今月8日現在で約270人がシールを貼った。

地図では、色の偏りによつて地域ごとのおおよその被害状況が一目で分かる。海沿い以外の地区でも堤防が決壊した定川

周辺は100～250センチを表す黄色のシールが集まる。市中心部は国道45号を境に北側が青、南側は50～100センチの緑が多

い。矢本南浦の自宅が床上浸水したという小学校教諭千葉香織さん32は緑のシールを貼り、「誰でも参加できる方がいいと思う。津波を覚えていない子どもたちのためにも、未来に伝えていくことは必要」と話した。

地図は本年度末に完成させる予定で、1万人の参加を目標としている。完成後はアーカイブに加えて公開するほか、節目ごとに展示する機会に役立てる。

図書館の加藤北敬副館長は「住民全体で作りたいので、ぜひ協力してほしい。他の市町村に広がることも期待している」と語った。